令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果について

令和８年４月２３日（中学校英語は各学校指定日実施）に小学校６年生と中学校３年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果を報告します。

報告内容
1　調査の実施状況
2　教科に関する調査の結果
・小学校国語、算数　　・中学校国語、数学、英語
3　質問紙調査（生活や経験について）の結果
4　教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から
5　結果をもとにした今後の取り組み

１　調査の実施状況（資料１）

調査実施日	令和８年４月２３日（中学校英語は指定日実施）
調査内容	教科に対する調査【小学校】国語、算数 【中学校】国語、数学、英語 質問紙調査　【小学校】【中学校】
調査対象	小学校２１校６年、中学校８校３年
調査状況	小学校　国語１，７３３名、算数１，７３６名 中学校　国語１，６３１名、数学１，６３１名、英語１，６１７名

２　教科に関する調査の結果

各教科それぞれの領域について、全国の平均正答率と比較をし、
「◎：たいへんよくできている」
「○：よくできている」
「□：おおむねできている」
「△：やや劣っている」
「▲：努力を要する」の５段階で示した。(以下の例参照)

（例）

教科の総合判定

Ａ教科　「　○　よくできている　」

学習指導要領の内容	Ｂ　書くこと	□
評価の観点	知識及び技能	○

この場合、Ａ教科において、総合判定では全国比で「○　よくできている」という結果であると示している。また、「Ｂ　書くこと」に関しては、全国比で□「おおむねできている」。「知識及び技能」については、全国比で○「よくできている」という結果であると示している。

全国と安城市全体の結果数値を比較したときの差
＜小学校６年生（教科に関する調査結果）＞

国語全体　□おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	▲
		(2) 情報の扱い方に関する事項	□
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	△
		B　書くこと	□
		C　読むこと	□
評価の観点		知識・技能	△
		思考・判断・表現	□
問題形式		選択式	□
		短答式	▲
		記述式	□

問題番号	出題の趣旨	結果
１一	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる	▲
１二（１）	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	△
１二（３）	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	▲
２三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	△
２三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	▲

算数全体　□おおむねできている

分類	区分	結果
学習指導要領の領域	A　数と計算	□
	B　図形	□
	C　測定	□
	C　変化と関係	□
	D　データの活用	□
評価の観点	知識・技能	□
	思考・判断・表現	□
問題形式	選択式	□
	短答式	□
	記述式	□

問題番号	出題の趣旨	結果
１（３）	体積の意味について理解しているかどうかをみる	△
１（４）	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	◎
２（２）	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる	○
２（４）	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	○
３（２）	整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる	○
４（１）	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる	○

＜中学校３年生（教科に関する調査結果）＞

国語全体　□おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	□
		(2) 情報の扱い方に関する事項	□
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	□
	思考力，判断力，表現力等	A　話すこと・聞くこと	□
		B　書くこと	□
		C　読むこと	□
評価の観点		知識・技能	□
		思考・判断・表現	□
問題形式		選択式	□
		短答式	□
		記述式	□

数学全体　□おおむねできている

分類	区分	結果
学習指導要領の領域	A　数と式	□
	B　図形	□
	C　関数	○
	D　データの活用	□
評価の観点	知識・技能	□
	思考・判断・表現	□
問題形式	選択式	□
	短答式	□
	記述式	□

問題番号	出題の趣旨	結果
4	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、ｘの値に対応するｙの値を求めることができるかどうかをみる	◎
5	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる	○
6（3）	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	○
8（1）	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	○
8（2）	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	△

英語４技能

問題番号	出題の趣旨	結果
１	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○
２	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	○
４	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	◎
５	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	◎
６	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○
９	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる	○
１０（１）	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	◎
１１①	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	◎
１１②	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	◎
１４	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	◎
１５（２）ａ	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	△
17	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる	▲

３　生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

児童・生徒質問紙（小・中学校）：調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施した。

（１）安城市全体において課題があると思われる回答（全国データと比較し少ない数値）

※当てはまる校種に▲

該当校種		質　問　事　項
小	中	
	▲	普段（月曜日から金曜日）１ 日あたりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でＳＮＳや動画視聴などをしますか
	▲	国語の勉強は好きですか
▲		国語の授業の内容はよく分かりますか
▲	▲	１、２年生のとき（５年生まで）に受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか
▲	▲	１、２年生のとき（５年生まで）に受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか
▲		５年生までに受けた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか
▲		５年生までに受けた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか
	▲	１、２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点は改善点を見いだしていましたか
	▲	１、２年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか

４　教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係

安城市における質問紙調査結果と平均正答率（ＩＲＴスコア）の相関関係から以下の児童生徒は平均正答率（ＩＲＴスコア）が高い傾向にある。

＜基本的生活習慣等＞

・朝食を毎日食べ、生活習慣が整っている。

・自分の良さに気付いている、先生から認めてもらっている、人の役に立つ人間になりたいという願望があるなど自己肯定感が高く、前向きな姿勢が見られる。

＜学習習慣、学習環境等＞

・自分と違う意見を受け入れる姿勢がある、分からないことや知りたいことがあったときに、自分から学び方を考え工夫するなど、学習に対して積極的。

・学校の授業以外に自主的に勉強に取り組み、日ごろから学習習慣が身についている。

・地域や社会をよくしたいと自分を取り巻く環境に目が向き、働きかけようとしている。

・パソコンやタブレットなどを使って情報を収集・整理、表現するなど、積極的にＩＣＴ機器を活用している。

＜主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

・自分の考えを発表する際に、各教科などで学んだことをまとめる活動をしたり、工夫して発表したりしている。

・学級の友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりするなど、自分以外の人の考えも大切にして課題解決をしている。

・授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けるなど、持続可能な思考をもっている。

・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理をして調べたことを発表している。また、それらの過程でＩＣＴ機器を積極的に活用している。

・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている。

＜学習に対する興味･関心や授業の理解度等（国語）＞

・国語の勉強に対して、得意、好き、授業の内容がよく分かるという思いをもつなど、前向きである。また、国語の授業は将来、社会に出たときに役立つと思うなど、これからの自分と結びつけて考えている。

・国語の授業で、読む、書く、話し合う活動を大切にしている。

＜学習に対する興味･関心や授業の理解度等（算数･数学）＞

・算数・数学の勉強に対して、得意、好き、授業の内容がよく分かるという思いをもつなど、前向きである。また、算数・数学の授業は将来、社会に出たときに役立つと思うなど、これからの自分と結びつけて考えている。さらに、算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できたという自信をもっている。

・問題の解き方が分からないときに、あきらめずに様々な方法を考える努力をしている。

・授業の中で、どのように考えたか説明する活動を積極的に行っている。

＜学習に対する興味･関心や授業の理解度等（英語）＞

・英語の勉強に対して、得意、好き、授業の内容がよく分かるという思いをもつなど、前向きである。また、将来、社会に出たときに役立つと思うなど、これからの自分と結びつけて考えている。

・生徒同士で英語を使って問答したり、意見を述べあったりする活動を積極的に行っている。
・聞いたり読んだりしたことについて、書いてまとめたり考えを英語で書いたりしている。

５　結果をもとにした今後の取り組み

各教科の全国的な課題や安城市の傾向を踏まえた今後の取り組みについて、各教科（国語、算数・数学、英語）と質問紙調査でまとめた。

（１）　全国的な課題と安城市の今後の取り組みについて＜国語＞

＜全国的な課題＞
・文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること
➡自分の考えを伝える際に、考えと根拠を区別して表現することを意識させることが重要

今後の取り組み

・文章中のどの部分を根拠として考えたのかを振り返る場を意図的に設定し、メタ認知を促すことで「得意」「好き」「分かった」など、国語に対して自信をもつことができる児童生徒の育成を目指す。
・文章中の根拠となる部分を引用し、自分の考えとの関係性を明確にして文章化する活動を繰り返し行う。さらに、書いた文章の内容について、叙述を基に考えを交流したり、根拠が妥当かどうかを確認したりする学習を充実させる。

（２）　全国的な課題と安城市の今後の取り組みについて＜算数・数学＞

＜全国的な課題＞
・立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえること
・２直線が平行になる条件の理解
➡図形の指導において具体的な活用の場面を通じて理解を深めることや、量と割合の違いについて図で表現するなどしながら理解を深めることが重要

今後の取り組み

・実物を実際に動かして実感を伴った活動を取り入れたり、ＩＣＴ機器を使って視覚的に理解を促したりして、具体的な生活の場面での活用の場面を設定する。また、式と図を関連付けながら、なぜそのような計算になるのかを説明する活動を積極的に取り入れる。
・なぜ平行と言えるのか、根拠と結論を結び付けて説明する活動を取り入れることで、条件の理解を促す。
・説明をする活動の中で、児童生徒がお互いの説明のよさを伝え合うことで、算数・数学に対して自信をもつことができるようにする。

（３）　全国的な課題と安城市の今後の取り組みについて＜英語＞

＜全国的な課題＞

・社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことはできているが、その理由を書くこと

・日常的な話題について、自分がしたいことを話すことはできているが、その理由を話すこと

➡自分の考えを書いたり、話したりする際に読み手や聞き手に伝わるよう、理由を示すことを意識させることが重要

今後の取り組み

・理由を表す表現を繰り返し使う場面を設定し、考えと理由を組み合わせて書く活動を行う。

・本文を読んだ後に生徒同士で意見を出し合い、「Ｗｈｙ？」と問い返す活動を行うことで理由を具体的に伝える習慣を身に付けることができるようにする。

（４）　全国の質問紙調査結果から明らかになったことと、今後の取り組みについて

＜学校及び児童生徒に対する質問紙調査の結果から、全国的に明らかになったこと＞

・「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率・ＩＲＴスコアが高い傾向にある。

・約９０％の児童生徒がＩＣＴ機器を活用することで「楽しみながら学習を進めることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と考えている。

・ＩＣＴ機器やインターネットについて、ルールやマナーを守って活用できる児童生徒ほど、いじめはどんな理由があってもいけないことだという意識が高い。

・ＩＣＴ機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向にある。

・ＳＮＳや動画視聴等の利用時間が長い児童生徒ほど、各教科の正答率・ＩＲＴスコアが低い傾向にある。

・「読書は好き」と回答した児童生徒ほど各教科の正答率・ＩＲＴスコアが高い傾向にある。

・「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒ほど、学級で人と違う意見を言っても否定されないと考えている。

今後の取り組み

・課題に向けて見通しをもって粘り強く取り組み、話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりする授業や、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」の実現を目指す。また、ＩＣＴ機器を活用した協働学習や発表の機会を増やし、活用への自信を高める。

・情報モラル教育を充実させ、ＳＮＳやインターネットの影響を考えたうえで、賢く正しく利用する習慣を身に付けることができるようにする。

・積極的に学校司書を活用し、発達段階に応じた読書活動を促す。

・一人一人のよさや努力を認める声かけを積極的に行い、教師自身が異なる意見も受け入れる姿勢を大切にし、安心して児童生徒が自分の考えを伝えられる雰囲気づくりをする。